

「想像の世界に遊ぶ力」

校長 石田 雄介

一気に秋が深まり、吹く風が冷たく肌を冷やし、紅葉も進み始めたようです。

学習発表会では多くの皆様からご来校いただき、誠にありがとうございました。聴き手を少しだけ多くした今年度は、子どもたちの発表への構えもぐんと気合いが入っていたように見えました。子どもたちの気持ちや思いは皆様にも伝わりましたでしょうか。

さて大きな学校行事が一段落し、落ち着いた秋の毎日となります。本をじっくりと読むのに良い季節です。次の文章は、宮沢賢治の『やまなし』の一節です：

「五月」（一部抜粋）

…にわかにはパッと明るくなり、日光の黄金はゆめのように 水の中にふってきました。なみから来る光のあみが、底の白いいわの上で うつくしくゆらゆらのびたりちぢんだりしました。あわや小さなごみからは まっすぐなかげのぼうが、ななめに水の中にならんで立ちました。

「十二月」（一部抜粋）

…白いやわらかなまる石も ころがって来、小さな錐の形の水晶のつぶや、金雲母のかけらもながれてきてとまりました。

そのつめたい水の底まで、ラムネのびんの日光がいっぱいにすきとおりにてんじょうではなみが青じろい火を、もしたりけしたりしているよう、あたりはしんとして、ただいかにも遠くからというように、そのなみの音がひびいてくるだけです。…

教科書の教材にもなっている物語ですが、宮沢賢治らしい美しい言葉で表現された情景描写に息をのみます。兄弟のカニは、あるいは親子のカニたちは、水の中でどんな景色を眺めているのだろう… 想像し、思い浮かべる自分だけの時間。それが読書です。

皆さんは、この文章の美しい景色をどのように想像するのでしょうか。読書は、想像力を伸ばします。自分の頭の中で考え想像したことは、自分だけのものであり自分だけの世界です。誰にもものぞけません。そこでは自由に遊ぶことができます。読書の醍醐味はそこにあります。

* * *

あふれる画像や動画に慣れた子どもたちに今必要なのは、「自分で想像する力」ではないでしょうか。誰かに与えられ誰かが描いたものではなく、自分で考え自分が想像したものを楽しむ力。そしてそのわくわくする時間。教育目標にある「自分で考え」は、読書でも重要です。

「想像すること」は、「新しいものを創造すること」につながります。11月は、たくさん本を読んで頭に栄養を与え、想像力をたくましくしたいものです。学校では読書旬間も計画しています。ご家庭でも可能でしたら親子読書「家読（うちどく）」をされ、読書の秋を満喫されてみてはいかがでしょうか。